

郡上踊りの音楽性 研究 博士号取得 ウィーン大

博士号取得

徹夜踊りで知られる岐阜県八幡町の郡上踊り。

オーストリアのウィーン大で民族音楽などを研究する森ひとみさん(四三)が、滋賀県彦根市出身。その音楽性に着目した論文で同大の哲学博士号を取得した。八年がかりの研究成果だ。

森さんは岐阜県の大垣女子短大音楽科卒。岡山県内の音大を経てウィーン大音楽学部へ留学、音楽分析や民族音楽を学び、琴の流派による音響の違いをコンピュータで分析して一九九四年秋、哲学修士号を取得。翌年三月、博士課程へ進んだ。

博士課程では「郡上踊りは曲数が多く、緩急やおぼやしの有無もさまざま」を論文のテーマに取り上げた。

音階分析、町民調査も

大垣女子短大出身・森さん

一時帰国して現地入りし、九六年から二夏の計二十夜分をビデオに収め、音声デジタル化して音階を分析。庶民的な「民謡音階」と、重厚で落ち着いた「都節(みやこぶし)音階」の二種の混在を明確にした。

「民謡音階」と、重厚で落ち着いた「都節(みやこぶし)音階」の二種の混在を明確にした。一回が一回ごとに違い、

九八年には町民の意識調査を実施し、三百四十五人分の回答を年齢層などで分析。若い世代は初心者も踊りやすい「観光のための踊り」を、比較的

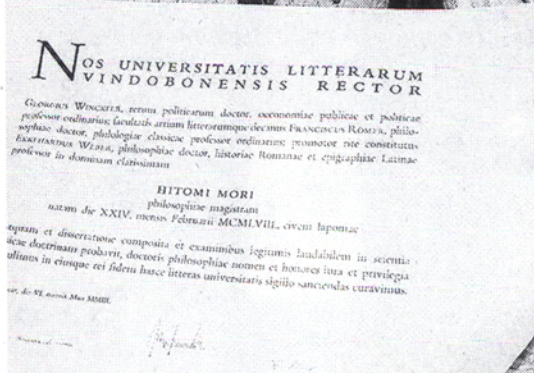
「伝統を保つための踊り」を好むといった意識の差があることが分かった。背景には郡上踊りの観光化があるという。

こつた音楽性と民族意識に焦点をあてた論文で五月初めに博士号を取得。今後ウィーンで日本古来の音楽の研究を続ける。「日本の民謡は節回しが一回ごとに違い、たのが始まりといわれる盆踊りで、国の重要無形民俗文化財。「かわさき」「春駒」など全10曲ある。毎年7月中旬から9月上旬の夜にかけて踊られ、特に8月13・16日の徹夜踊りは有名。毎年延べ約35万人が訪れる。



郡上踊り

400年ほど前、藩主が領民の融和を図るために奨励した。



郡上踊りをテーマにした研究でウィーン大から博士号を受けた森さん＝滋賀県彦根市で